

地域開発の 新しい「方程式」

北海道の酪農、栃木の益子焼、群馬の養蚕、京都の織物、鹿児島焼酎……。日本全国どこに行っても、必ずその土地の代名詞ともいえる「もの」がある。長年かけて、人々が懸命に守りはぐくんできたこれらの「地場産業」。こそ、私たち日本人の誇りだ。

そしてこの数十年、地域開発に有効な手段として、日本各地の地場産業が注目されている。特産品をそろえた田舎道にある道の駅、都内に集まるアンテナショップ、地方の歴史的建造物巡りや伝統文化を体験する旅プラン……。もともと地域にある資源を活用してビジネスを展開し、成功を収めている地域も少なくない。「地域再生の新戦略」（中公叢書）の著者、京都大学大学院経済学研究科の諸富徹教授は、その背景についてこう分析する。「高度経済成長期には、どちらかというと、政府の国土計画ありきの地域開発が推進されてきました。中でも一般的だったのが「外」から企業を誘致し、新たに産業を興すという手法です。しかしバブル崩壊後、日本の製造業はより生産コストが低い海外に拠点を移すなど、劇的な産業構造の変化を余儀なくされ、多くの企業が撤退してしまっただけで、多量と当然、見る見るうちに地域経済はさびれてしまっています」。

「外」から呼び込んだものに依存してい

る限り、時代や景気に左右されてしまいう。このような経験から日本は、持続的な地域開発を実現するために、その地域にしかない財産、つまり「地場産業」を継承し生かす方向へシフトしていった。

「金太郎飴のように、どこに行っても同じ町並みではつまらない。道路や港湾、空港などハード面の社会資本よりも、観光、歴史的遺産、文化、さらにはその土地に暮らす「人」に投資することこそ、地域開発の新しい「方程式」だという発想が生まれてきたのです」

そしてその取り組みの陰では、地場産業の魅力を引き出すために住民を行動へと導くキーパーソンが大きな役割を果たした。「例えば、農産物直売所「からり」で有名な愛媛県内子町には岡田文淑氏、民間主導のガラス産業を推進した滋賀県長浜市には笹原司朗氏がいた。彼らに共通するのは、日本全体における位置付けを理解し、社会の潮流の中で、自分たちの地域が何をすべきかをきちんと考えていることです」。さらに、住民たちが「これがやりたい」という写真をしっかりと持っていることも、成功のカギになっているという。

もちろん、サクセスストーリーばかりではない。成功の裏には失敗もある。しかし成功と失敗を積み重ね、さまざまな経験や挑戦を共有してきたことが、日本の地域の未来を作る上で貴重な財産となっていることは確かだ。

「日本の地域経済が疲弊しているとい

われるこの時代、日本には、世界に誇れる知恵や技術がまだまだある。それを存分に生かした地域開発が、今後はより有効になってくるはずですよ」と諸富教授は話す。

途上国のニーズに応じて 支援方法を工夫

このような日本の経験は現在、開発途上国で取り組まれている地域開発に役立てられており、JICAも日本の地場産業を活用した国際協力を数多く実施して

特集 地場産業 日本の底力

ら独自のまちづくりを模索してきた日本の地域。下ろし、いくつもの土地で花開いている。地域開発の仕掛けと成功の秘訣とは一。

いる。しかし、地場産業は地域に根差したものであるが故に、いくら良いものでも、他の場所で成功するとは限らない。そこでJICAは、富山の定置網漁（8ページに関連記事）のような技術移転型、十勝の農業（14ページに関連記事）のような歴史学習型、東大阪の製造業（12ページに関連記事）や大分の一村一品運動（16ページ関連記事）のような仕組み応用型といった支援方法を、途上国のニーズに応じた形で使い分けている。

その中で重要な役割を果たしているのがJICAの国内拠点だ。北海道から沖縄まで17カ所に設置された各拠点は、途上国のニーズを把握するとともに、自治体・NGO・大学機関など地元組織と密に連携を図りながら、草の根技術協力事業や研修員受入事業などを通じて来日するJICA研修員に、その地域に蓄積されてきた「知」や「技」を伝えている。

そして日本の地場産業の現場を踏み、その土地のキーパーソンたちと出会った途上国の研修員からは、「日本の地場産業の現場を実際に見聞きし、自分の地元でも資源を生かしたビジネスチャンスの可能性を感じた」という声が多く聞かれる。他方、外国人を受け入れたことで、自分たちの町の新たな魅力の発見につながったという日本の地域も増えている。

地元の活力を最大限伸ばし、地域の活性化につなげてきた日本。私たちの誇りであるこの「地場産業」は、日本と途上国双方の成長の底力にもなっている。

羽ばたけ、

時代の変化とともに、試行錯誤を重ねながらそこに“在る”ものを生かした産業が根を日本が歩んできた“地場産業”を通じた地

精密機器などの金型を製造する東京都板橋区の町工場で、タイから来たJICA研修員が日本人技師から金型の成型技術を学ぶ（撮影：今村健志朗）